

# 思考力・判断力の育成を目指した社会科の授業づくり

## 一 歴史的分野（明治維新）の学習を通して一

授業づくり支援課授業支援Ⅰ班 長期研修員 鈴木 久美子

### 1 主題設定の理由

研究指定テーマ「新学習指導要領を踏まえた授業づくりにかかわる研究」を受け、思考力・判断力の育成を目指した中学校社会科の授業づくりを追究したいと考えた。

社会科の学習が苦手だという生徒たちに理由を聞いてみると、その回答のほとんどは「社会科は覚えることが多いから」である。確かに、社会科では様々な社会的事象を授業で扱い、その学習内容の定着をテストで問うことが多いため、生徒は覚えることに意識が向いてしまうと考えられる。

社会的事象を理解し、正しく覚えることは大切である。しかし、中央教育審議会答申（2008.1）の社会科の「改善の基本方針」で、一つ目の項目に「社会的事象に関心を持って多面的・多角的に考察し、公正に判断する能力と態度を養い、社会的な見方や考え方を成長させることを一層重視する」と示されたように、社会科の学習では単に学習内容を暗記させるのではなく、「思考力」や「判断力」の育成を今後一層重視していく必要がある。

思考力・判断力の育成を目指して、私がこれまで授業で心掛けてきたことは「導入時や追究の過程における効果的な資料の提示」である。これにより、生徒に社会的事象への興味・関心を持たせたり、資料の読み取り方等の基礎的・基本的な知識・技能を習得させたりすることができた。しかし、複数の資料を関連付けるなど、考えを深め、意欲的に議論したり、考えをまとめたりする姿はほとんど見られず、思考力・判断力の育成は十分にできなかったと感じている。

そこで、思考力・判断力の育成を目指した社会科の授業づくりを追究したいと考え、本主題を設定した。

### 2 研究の目的

思考力・判断力を育成する社会科の授業づくりの具体的な視点や手だてを追究し、その有効性を検証する。

### 3 研究の方法

- (1) 文献や研究報告書を読み、社会科における思考力・判断力について明確にし、仮説を立てる。
- (2) 社会科の学習に対する意識や思考力・判断力の実態を調査するアンケート・評価問題を作成する。
- (3) アンケート・評価問題の結果から、所属校生徒の実態を分析し、課題を明らかにする。
- (4) 明らかになった課題を基に、思考力・判断力の育成を目指した社会科の授業を構想し、実践する。

- (5) 授業における生徒の表れやワークシートの記述内容、社会科の学習に対する意識や思考力・判断力に関する調査結果の比較から、仮説や手だての有効性を検証する。

#### 4 研究の内容

##### (1) 社会科における思考力・判断力

梅津正美氏（鳴門教育大学大学院准教授）は、「社会系教科で育成をめざす「思考力」は、知識や資料活用の技能と独立して存在する形式的能力ではなく、社会的事象に関する「知識」と、問いの構成と資料活用の技能を基盤とする「思考技能」とが一体化した能力である」と述べている（注1）。つまり、「どのような思考力・判断力を育成するか」は、「思考・判断の結果、どのような知識の獲得を目指すのか」や「どのような問いで、どのような知識や資料を活用して思考・判断させるか」ということとのかかわりでとらえていくべきだとしている。

これを踏まえ、梅津氏は思考力・判断力とその内容を段階的に分類し、それぞれの思考力・判断力につながる「問い」の在り方、思考・判断の結果得られる「知識」を、次のように整理している（資料1）。

【資料1】授業における「思考力・判断力」と「問い」「知識」のかかわり（注2）

問  い	思考力・判断力とその内容		知 識
いつ、どこで、誰が、なにを。	事実判断	資（史）料をもとに、事実を判断し記述できる。	事象記述
なぜか、(その結果)どうなるか、(時代の社会の)本質はなにか。	推 論	事象の原因、結果、意味や時代の社会の意義・特質を解釈し説明できる。	事象解釈 時代解釈 社会の一般理論
～よいか（悪いか）、望ましいか（望ましくないか）。	価値判断	事象を評価的・規範的に判断できる。	価値的・ 評価的知識
いかに～すべきか。	意思決定	論争問題や論争場面において望ましい行為や政策を根拠に基づいて選択できる。	価値的・ 評価的知識
その解釈の背後にはどのような価値観や立場性があるか。その解釈は、どのような手続き・方法により主張されているか。	批判的思考	歴史解釈（言説）に内在する価値・立場を吟味できる。 歴史解釈（言説）の主張の手続き・方法を吟味できる。	メタ認知 (知識を解釈するための知識)

梅津氏の考えを基に自分のこれまでの授業を振り返ると、その授業において、どの段階の、どのような思考力を身に付けさせるのかが不明確であった。そのため、どのような思考力・判断力を育成するための「問い」なのかが明確でなく、どのような「資料」を基に、どのような「既習の知識」を関連付けさせ、何を見いださせるのかについても曖昧になっていた。

そこで、本研究では「授業のねらいや育成したい思考力・判断力を明確にして「問い」を設定し、思考・判断の基盤となる「知識の習得」や「資料の提示」が保障された単元を構想して授業実践をすれば、思考力・判断力を高めることができる」と仮説を立て、主題を追究していくこととした。

## (2) 実態調査のためのアンケート・評価問題の作成

所属校の授業を実践するクラスを対象に行う「社会科の学習に対する意識アンケート」と「思考力・判断力の実態を調査する評価問題」を作成した。これらの調査は授業実践の前後に2回（7月・10月）実施し、比較・分析することで仮説を検証することとした。

### ア 社会科の学習に対する意識アンケートの内容

- ①社会科が好きか。（その理由）
- ②社会科が得意か。（その理由）
- ③社会科の学習でどのような活動が好きか。
- ④社会科の学習で大事だと思う活動は何か。

なお、③・④については、同じ11の活動項目を提示し、そこから複数選ばせた。11の活動項目のうち、問いに対して思考したものを表現する主体的な活動（A）を6項目、どちらかという受け身の活動（B）を5項目、設定した。各項目内容は以下の通りである。

- (A)：調べ学習をする、見学や聞き取りに行く、話し合いをする、発表する、学習した内容をノートにまとめる、自分の考えをノートにまとめる
- (B)：新聞やニュース番組・ビデオなどを見る、教科書を読む、暗記する、問題を解く、先生の話聞く

### イ 思考力・判断力の実態を調査する評価問題の内容

生徒の思考力・判断力の実態をとらえるため、3つの設問を作成した。これらの設問には「問い」「資料」「知識」について以下のような差異を付けた。これにより、思考力・判断力の実態をより具体的にとらえられると考えた（資料2）。

#### 【資料2】思考力・判断力を調査する評価問題

設問	分野	問いと思考力・判断力の分類	手掛かりとさせる提示資料	解答するために必要とされる知識
1	地理	○東京で取引される青森県産の鶏卵（にわたりの卵）について、資料1, 2, 3から読み取れることを説明しなさい。  ○「事実判断」「推論」	資料1：地図 資料2：グラフ 資料3：表  ○各資料に順序性があり、因果関係もつかみやすく、関連付けが平易なもの	○小学校段階で習得した知識を要する。
2	歴史	○資料A・B・Cを読み取ったり、比較したりして、奈良時代はどんな時代であったか、説明しなさい。  ○「価値判断」	資料A：絵 資料B：文章と絵 資料C：地図  ○各資料の関連付けが難しいもの	○中学校段階で習得した知識を要する。
3	公民	○資料イ・ウを見て、資料アの選挙制度の改革がうまくいったかどうかを読み取り、その理由と合わせて説明しなさい。  ○「価値判断」	資料ア：表 資料イ：グラフ 資料ウ：グラフ  ○各資料に順序性があり、因果関係もつかみやすく、関連付けが平易なもの	○未習事項であるが、生活経験上、身に付けているであろう比較的平易な知識を要する。

### (3) 所属校の生徒の実態

#### ア 社会科の学習に対する意識の実態

対象：所属校の授業実践を行う第2学年2組生徒、計31人（欠席1人）

時期：2009年7月下旬

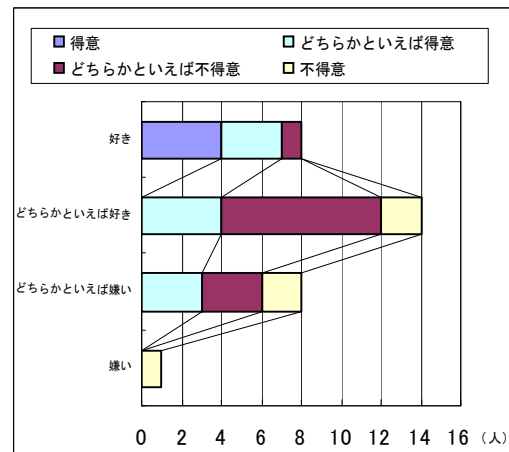
質問項目「社会科が好きですか」と「社会科が得意ですか」とのクロス集計を行い、相関関係を見た（資料3）。

このクラスは「社会科が好き」「どちらかといえば好き」と答えた生徒が半数以上を占めている。しかし、「好き」であることが「得意」とは限らず、「どちらかといえば好き」と答えた生徒の約7割は「どちらかといえば不得意」「不得意」と答えている。

社会科が得意か不得意かをどのような点で判断したかを、「社会科が好き」「どちらかといえば好き」と「どちらかといえば嫌い」「嫌い」と答えた生徒別にまとめてみると（資料4）、生徒の多くは得意か不得意かを、学習内容を覚えることやテストで点が取れることで判断していることが分かる。

以上の結果から、このクラスは、社会科は好きだが覚える教科であるという意識の強い生徒が多く、考える面白さや価値に気付いている生徒が少ないことが分かった。

【資料3】「好き」「得意」とのクロス集計（7月）



【資料4】質問項目「社会科が得意ですか」の理由の内訳（7月）

	○得意 ○どちらかといえば得意 (14人)	○不得意 ○どちらかといえば不得意 (17人)
○好き ○どちらかといえば好き (22人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考えたり、覚えたりすることが好き (3人)</li> <li>・テストの点が取れる (3人)</li> <li>・歴史が得意、地理が不得意 (2人)</li> <li>・調べたり、発表したりできる (1人)</li> <li>・歴史が苦手 (1人)</li> <li>・覚えられない (1人)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・覚えられない (8人)</li> <li>・地理が苦手 (2人)</li> <li>・ノートにまとめられない、語句が難しい (1人)</li> </ul>
○どちらかといえば嫌い ○嫌い (9人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・覚えるだけだから (1人)</li> <li>・現代はいいが、昔のことが苦手 (1人)</li> <li>・歴史が苦手 (1人)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・覚えられない (4人)</li> <li>・地理、歴史両方が苦手 (1人)</li> <li>・地理は得意、歴史が苦手 (1人)</li> </ul>

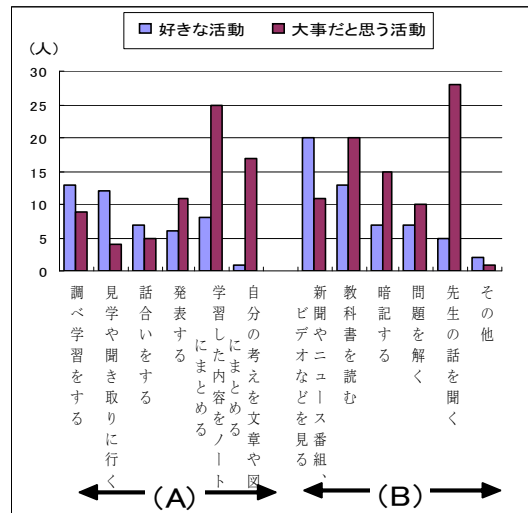
社会科の学習で好きな活動と大事だと思う活動の相関関係を見た（資料5）。

生徒の半数以上が好きだと答えた活動は「新聞やニュース番組、ビデオなどを見る」

だけであるが、この活動を大事だと答えた生徒は全体の約3割と少ない。また、「調べ学習をする」「見学や聞き取りに行く」「話し合いをする」といった(A)の主體的な活動の3項目も、好きだと答えた生徒に比べ、大事だと答えた生徒が少ない。この結果から、このクラスは、情報を集めたり、交換したりして思考を深め、問題を解決することは好きだが、大事だと思う生徒が少ないことが分かる。

生徒の半数以上が大事だと答えた活動は5項目あるが、これらを好きだと答えた生徒は少ない。特に「学習した内容をノートにまとめる」「自分の考えを文章や図にまとめる」「先生の話聞く」の3項目は、大事だと答えた生徒に比べ好きだと答えた生徒が極端に少ない。この結果から、このクラスは、思考したことや、先生の話聞いたり、教科書を読んだりして分かったことを書いて表現することを大事だと思っているが、好きだと思う生徒が少ないことが分かる。

【資料5】好きな活動、大事だと思う活動（7月）



イ 思考力・判断力の実態

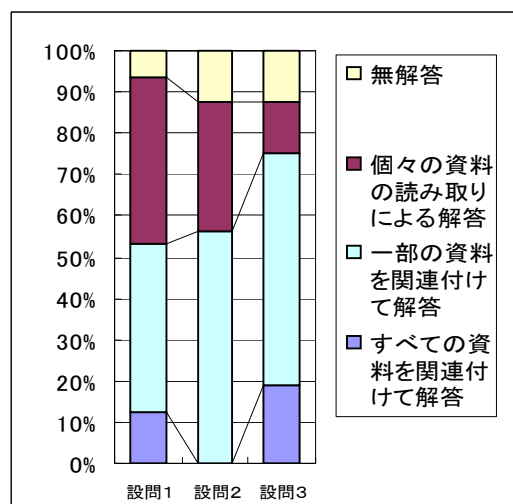
対象：所属校の授業実践を行う第2学年2組生徒、計32人

時期：2009年7月下旬

思考力・判断力の実態を、資料2に示した3つの設問の解答から分析した(資料6)。

設問1, 2は、既に授業で学習した内容について、3つの資料を関連付けて解答するものである。しかし、複数の資料を関連付けて解答した生徒は半数程度であった。特に、設問1の、小学校段階で習得した知識と、関連付けの平易な3つの資料を活用して解答する設問であっても、個々の資料の読み取りにとどまる生徒が多かった。この結果から、このクラスは、既に習得した知識を活用し、複数の資料を関連付けて考え表現する力が十分でない生徒が多いと考えられる。

【資料6】思考力・判断力の調査結果（7月）



設問3は、公民的分野の未習事項に関する設問であるが、複数の資料を関連付けて解答した生徒の割合が最も多かった。これは、思考・判断の基盤となる知識が未習事

項であったり、難しい問いであったりしても、「うまくいったかどうか」という二者択一の明確な問いであったため、複数の資料から根拠を見付け、それらを関連付けて思考・判断しようとした結果ではないかと思われる。

#### (4) 思考力・判断力の育成を目指した単元構想と授業の実際

##### ア 単元構想について

生徒の実態を踏まえ、育成したい思考力・判断力を「価値判断（資料1参照）」とし、社会的事象を評価的・規範的に判断する力を育成する単元を構想するため、以下の3点を重視することとした。

- ・単元を貫く問いを設定し、単元全体を通して価値判断をする力を育成する。
- ・毎時間の授業において、生徒が切実感や必要感を持つような問いを設定し、問題解決的な学習を行う。
- ・価値判断をするために必要な知識の習得の場と、それらを活用して思考・判断させる場を単元の中に計画的に位置付ける。

以上を踏まえ、歴史的分野「明治維新」で単元を構想した（資料7）。

【資料7】単元「明治維新～明治政府の通知表をつくろう～」の構想（計11時間）

段階	時間	学習内容と学習課題	ねらい
単元を貫く問いの設定	1	<b>「明治」という時代</b> ○元号「明治」の意味を考えよう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">             日本は「明るい方向に向かって治まる明治時代」を迎えたか。           </div>	○江戸時代との比較や五箇条の御誓文の読み取りを通して、元号「明治」の意味を具体化し、明治政府の諸政策に興味・関心を持つことができる。
明治初期の政策・行為についての知識の習得	2	<b>「政府の政策1 ～版籍奉還・廃藩置県・身分制度～」</b> ○江戸時代と比べて何が変わったのだろうか。	○江戸時代の政治の仕組みとの比較を通して版籍奉還・廃藩置県・身分制度の内容や特色を知ることができる。
	3	<b>「政府の政策2～富国強兵～」</b> ○政府はどんな国をつくらうとしたのだろうか。また、人々はどうか考えたのだろうか。	○資料「農民一揆発生地」の読み取りを通して、富国強兵策に対する政府の意図と人々の受け取り方の違いに気付くことができる。
	4	<b>「政府の政策3～殖産興業～」</b> ○工女に「練婦勝兵隊」という言葉を贈った所長の気持ちを考えよう。	○所長の気持ちを資料と関連付けて考えることを通して殖産興業の目的と人々の生活の変化を知ることができる。
価値判断	6	<b>「政府の通知表をつくろう1」</b> ○政府の行った諸政策を評価し、成績を付けよう。	○明治政府の通知表づくりを通して、明治政府が行った諸政策を総括し、根拠を明確にして判断することができる。
帝国議会開設までの政策・行為についての知識の習得	7	<b>「帝国議会開設までの道のり1」</b> ○帝国議会開設までに時間がかかったのはなぜだろう。何があったのだろうか。	○通知表づくりの振り返りを通して、帝国議会開設までに時間がかかったことに気付き、その間の国内の動きに興味・関心を持つことができる。
	8	<b>「帝国議会開設までの道のり2」</b> ○岩倉使節団・西南戦争・自由民権運動について調べよう。	○小集団での調べ学習を通して、帝国議会開設までの国内の動きを分かりやすくまとめることができる。
	9	<b>「帝国議会開設までの道のり3」</b> ○調べてわかったことを発表し、3つの出来事をつなげよう。	○調べ学習で分かったことを発表することを通して、国内の動きを知るとともに、相互の関連に気付くことができる。
価値判断	10	<b>「大日本帝国憲法と議会」</b> ○政府はどのような憲法をつくったのだろうか。	○民権派の憲法草案と大日本帝国憲法との比較を通して、大日本帝国憲法の特徴を知るとともに、その意義を考えることができる。
	11	<b>「政府の通知表をつくろう2」</b> ○帝国議会開設までを振り返り、成績を付けよう。	○明治政府の通知表づくりを通して、帝国議会開設までの動きを総括し、根拠を明確にして判断することができる。

本単元は近世から近代への転換期の学習である。この単元も含め、近現代の学習では、より広い視野から社会的事象をとらえる必要があり、取り上げる事項も格段に多くなる。したがって、社会科は覚える教科だという意識が強い生徒にとっては、明治時代の学習は覚えることが多く、苦手だという意識を持ちやすいといえる。

近現代の日本は、外圧による開国以来、常にアジアや欧米諸国と密接なかかわりを持ちながら発展してきた。特に、本単元は欧米の近代社会をモデルとしてアジアの中でいち早く近代化に成功し、近代国家の仕組みを整え、アジアで初の立憲国家を成立させた時代の学習である。このような明治の近代化をとらえるためには、明治政府の行った諸政策を単独で学ぶのではなく、明治政府や国民の立場、あるいは諸外国との関係といった様々な視点から諸政策をとらえ、他の社会的事象との関連性に気付いたり、諸政策の全体像を考えたりすることが必要であると考え。そのためには、明治政府の行った諸政策を様々な視点から吟味し、総合的に価値判断をしていくという「政府の通知表づくり」という活動が有効であると考えた。政府の行った諸政策に成績を付けるという活動は、習得した知識を再度活用することにつながり、社会科は覚える教科だという意識の強い生徒も思考力・判断力を身に付けることができると考えた。

第1時では、元号「明治」の意味を考えさせながら、「日本は「明るい方向に向かって治まる明治時代」を迎えたか」という単元を貫く問いと、明治政府の諸政策に成績を付ける時の観点を作成することとした。この観点を、単元の学習全体を通して常に意識させ、版籍奉還から殖産興業までを「明治時代1学期」、岩倉使節団から帝国議会開設までを「明治時代2学期」と称し、第6時と第11時に、明治政府の諸政策に成績を付ける活動を設定した。成績を付ける時間の前には、それぞれの政策についての知識を習得する場を設け、どの時間も問題解決的な学習を行うこととした。

## イ 授業の実際について

### (7) 授業実践1 「「明治」という時代」(第1時)

単元の最初の時間で、単元全体を貫く問いを設定する時間である。これから学習する明治時代への興味・関心を高めるとともに、明治時代とはどのような時代なのかをつかむことができるよう、元号「明治」の意味を考える活動を行った。また、江戸時代との比較や「五箇条の御誓文」の読み取りを行い、成績を付けるための観点を考える手掛かりとした(資料8)。

生徒たちは、「明治」という元号に込められた「今までと違って明るくなること」という願いを、江戸時代との比較から「一揆や争いがなくなる」「身分や男女の差別がなくなる」「人々の生活が安定する」と考えた。

次に、明治政府の基本方針である「五箇条の御誓文」と自分たちの考えを比較・検討し、明治政府の諸政策に成績を付ける時の観点として以下の5つを設定した。

- ①政治のことは会議を開き、多くの人々の意見で進める。
- ②国民全員で協力し、国を強く豊かにする。

- ③それぞれの身分の者たちの願いがかなえられ、不満や争いが起きないようにする。
- ④外国と争うことをやめ、仲良くするよう努力する。
- ⑤新しい知識を外国から学び、天皇が治める国づくりを進める。

**【資料8】授業実践1 「明治」という時代の学習過程**

段階	学習内容	思考力・判断力育成の手だて
導入 展開	<p>○元号「明治」にはどんな意味があるのだろうか。</p> <p>○「明るい方向に向かって」とは、具体的にどのような様子を指すのだろうか。</p> <p>○「五箇条の御誓文」を読み、自分の予想と比べてまとめよう。</p> <p>①政治のことは会議を開き、多くの人々の意見を進める。            ②国民全員で協力し、国を強く豊かにする。            ③それぞれの身分の者たちの願いがかなえられ、不満や争いが起きないようにする。            ④外国と争うことをやめ、仲良くするよう努力する。            ⑤新しい知識を外国から学び、天皇が治める国づくりを進める。</p> <p>この方針が達成され、日本は明るい方向に向かって治まる明治時代を迎えられたのだろうか。明治政府の政策に成績を付けて考えよう。</p>	<p><b>【単元を貫く問いの設定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・明治時代への興味・関心を持たせる。</li> <li>・江戸時代と比べて考えさせ、「明るい方向に向かって」を具体化する。</li> <li>・明治政府の政治方針である「五箇条の御誓文」と自分たちの予想を比較させる。</li> <li>・班で話し合い、御誓文の各項目ごとにキーワードを決めさせる。</li> <li>・班ごとにキーワードと選んだ理由を発表させ、各項目の内容をまとめる。</li> <li>・評価、判断させるような単元全体の問いを設定する。</li> </ul>
終末	○政府の政策について、次の時間から学習していこう。	

**(イ) 授業実践2 「明治政府の通知表をつくろう2」(第11時)**

単元の最後の時間である。岩倉使節団から帝国議会開設までの「明治時代2学期」について、生徒が単元第1時の授業で定めた5つの観点で評価し、成績を付ける活動を行った(資料9)。

**【資料9】授業実践2 「明治政府の通知表をつくろう2」の学習過程**

段階	学習内容	思考力・判断力育成の手だて
導入	<p>帝国議会開設までを振り返り、日本は明るい方向に向かって治まる時代を迎えたか、明治政府の成績を付けよう。</p>	<p><b>【価値判断する力の育成】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元全体の問い「日本は明るい方向に向かって治まる時代を迎えたか」を基に判断させる。</li> </ul>
展開	<p>○外交、自由民権運動、大日本帝国憲法制定、第1回総選挙、帝国議会開設を2学期として評価し、ワークシート(通知表)に記入しよう。</p> <p>○「評価全体会」を行い、意見交換しよう。</p> <p>○他の人の意見を聞き、最終判断をしよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1時に定めた、五箇条の御誓文を基にした5つの観点で判断させる。</li> <li>・自分の考えをワークシート(通知表)に記入させる。</li> <li>・キーワードカード等を見て学習内容を振り返りながら考えを書かせる。</li> <li>・「評価全体会」を持つことで他者と意見交換し、考えを深める。</li> </ul>
終末	○成績が付いたら政府へのアドバイスを書こう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・政府の政策や国内外の動きを広い視野でとらえ、成果や課題を明らかにする。</li> </ul>



単元第6時にも「明治時代1学期」の成績付けとして明治初期の諸政策に対する評価を行い、本時は2回目の成績付けとなった。生徒は第6時と比べ、学習内容を振り返り、根拠を挙げて評価した理由を書くことができていた(資料10)。

#### 【資料10】「明治時代2学期」の評価理由

- ・ 観点③の評価Bの生徒  
国会を開いたり、選挙をしたり、いろいろな人の願いがかなえられた感じはするけれど、選挙に制限があったり、西南戦争が起こったり、完全にできたとはいえないから。
- ・ 観点④の評価Bの生徒  
外国との戦争はなかったが、征韓論が出てきたり、朝鮮を無理に開国させたり、不平等条約を結ばせたりしたから。
- ・ 観点⑤の評価Aの生徒  
伊藤博文らがドイツの憲法を基にして大日本帝国憲法をつくり、天皇中心の国づくりを行ったから。

資料10から、生徒は5つの観点を基に、日本全体の動きや外国との関係、国民の立場など様々な視点から、既習の知識や様々な資料を関連付けて評価していることが分かる。

また、成績を付けた後には政府の重要人物(伊藤博文)との面談を想定して生徒にアドバイスを書かせた(資料11)。

#### 【資料11】政府へのアドバイス

- ・ 1学期は国民の意見なんて聞かなかったのに、今回は(一部ではあるが)国民の意見を聞いていいと思う。でも、選挙権があるのが男子で15円納税するというのは少し厳しく、条件が多い。女子の意見を聞くようにした方がいい。
- ・ だんだん国が良くなってきたと思うからもっとがんばってほしい。議会を開いたり選挙制度ができたりしたから、いろいろな人の意見を聞いて、もっとみんなが幸せに暮らせる国をつくってほしい。
- ・ 岩倉使節団が不平等条約を改正しに行ったのに、朝鮮を無理に開国させ不平等条約を結んだのはよくない。自分たちが嫌だと思ふことを他国に対して行うことは最悪だ。周りの国々と仲良くし、お互いに助け合う気持ちを持つことがこれからの日本には必要だと思う。

資料11をみると、生徒は岩倉使節団から帝国議会開設までの国内外の動きを振り返り、「国民の意見を聞いていい」が「選挙権が男子で15円納税するというのは厳しい」から「女子の意見を聞くようにした方がいい」というように、既習の知識や授業で提示された資料を関連付けて、「日本が明るい方向に向かっているのかどうか」について思考・判断していることが分かる。また、根拠を挙げてアドバイスを書いている生徒が多く、明治政府の諸政策全体をとらえ、自分の考えを持つことができたことも分かる。

(5) 授業実践後の生徒の実態

ア 社会科の学習に対する意識の変容

対象：所属校の授業実践を行った第2学年2組生徒、計31人（欠席1人）

時期：2009年10月上旬

授業実践前（7月）と比較すると、授業実践後（10月）では、社会科を好きと答える生徒が増えた。また、嫌いと答える生徒はなく、実践前以上に社会科が好きな傾向が強まったことが分析できる（資料12）。

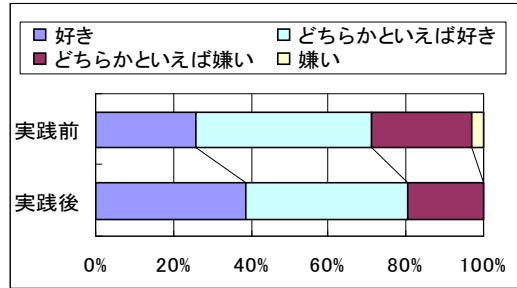
質問項目「社会科が好きですか」と「社会科が得意ですか」とのクロス集計を行い、相関関係を見た（資料13）。

授業実践前と比較すると、「好き」「どちらかといえば好き」と答えた生徒で、「得意」「どちらかといえば得意」と答えた生徒が増えた。また、「不得意」だが「好き」と答えた生徒が増えたことも分かる。

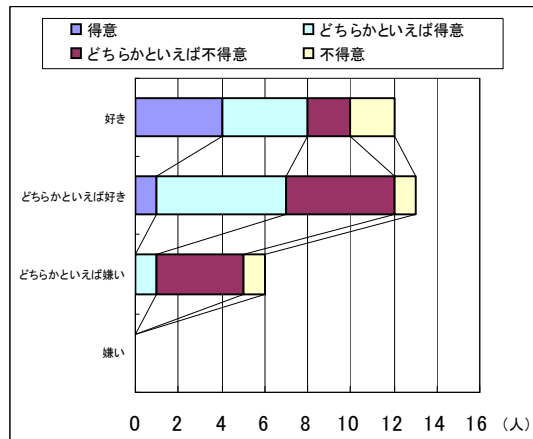
社会科が得意か不得意かを、どのような点で判断しているのかを分析すると（資料14）、授業実践前では学習内容を

覚えることやテストで点が取れることで判断していたのに対し、授業実践後では調べ学習や話し合いができたかどうかや自分の考えを書けたかどうかで判断していることから、覚えることよりも考えることに生徒の意識が向いていることが分かる。

【資料12】「社会科が好きですか」の変容



【資料13】「好き」「得意」とのクロス集計（10月）



【資料14】質問項目「社会科が得意ですか」の理由の内訳（10月）

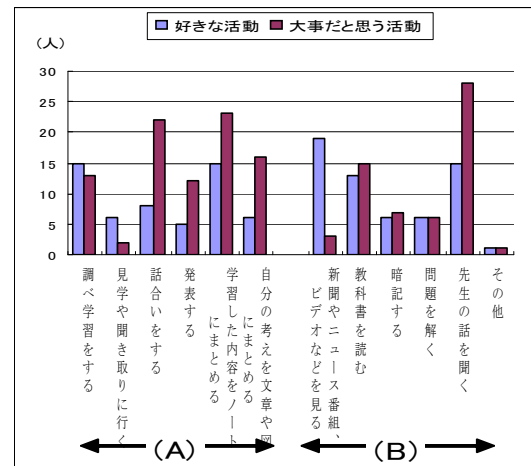
	○得意 ○どちらかといえば得意 (16人)	○不得意 ○どちらかといえば不得意 (15人)
○好き ○どちらかといえば好き (25人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>調べたり、話し合ったりすると頭に入る、分かる (9人)</li> <li>調べ学習や話し合いがしっかりできた (5人)</li> <li>商業（殖産興業）のことが分かった (1人)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えを書くことが苦手で難しかった、しっかり書けなかった (5人)</li> <li>本当に分かったか、よく分からない (3人)</li> <li>話し合いであまり意見が出せなかった (2人)</li> </ul>
○どちらかといえば嫌い ○嫌い (6人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>成績を付けながらいろいろなことを考えることができた (1人)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えを書くことが苦手でしっかり書けなかった (4人)</li> <li>理解しているのか、よく分からない (1人)</li> </ul>

また、授業実践後の生徒の感想の中には「明治政府の政策に成績を付けたり、アドバイスを書いたりすることは難しかったけれど、自分が分かっているかどうか確認することができて良かった」とあり、学習内容をどのくらい理解できたかを思考・判断を伴う活動で確認できることに気付いた生徒もいたと考えられる。

授業実践後における好きな活動と大事だと思う活動の相関関係を見た（資料15）。

生徒の半数以上が好きだと答えた活動は3項目増え、そのうち、「調べ学習をする」「学習した内容をノートにまとめる」の2項目は、(A)の主体的な活動の項目であった。また、学習した内容をノートにまとめることを好きだと答えた生徒が約2倍に増え、自分の考えを文章や図にまとめることを好きだと答えた生徒も増えた。この結果から、思考したことや、先生の話を読いたり、教科書を読んだりして分かったことを書いて表現することの面白さを感じた生徒が増えたと考えられる。

【資料15】好きな活動、大事だと思う活動（10月）



大事だと思う活動では、話し合いを大事だと答えた生徒が約4倍に増え、調べ学習を大事だと答えた生徒も増えた。この結果から、情報を集めたり、交換し合ったりして思考を深め、問題を解決することの重要性に気付いた生徒が増えたと考えられる。

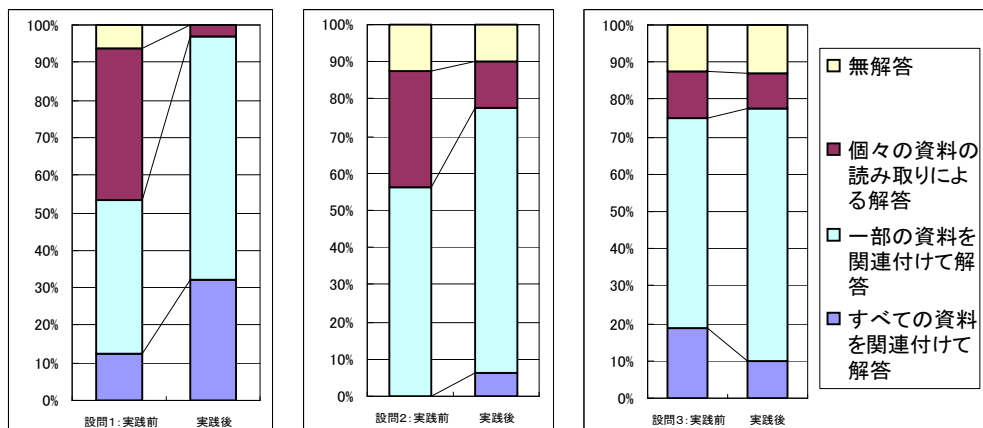
## イ 思考力・判断力の変容

対象：所属校の授業実践を行った第2学年2組生徒、計31人（欠席1人）

時期：2009年10月上旬

思考力・判断力についての変容を分析した（資料16）。

【資料16】思考力・判断力に関する調査結果の比較



設問1，2，3ともに、複数の資料を関連付けて解答した生徒は増加し、個々の資料の読み取りにとどまる生徒は減少した。特に、設問1では、複数の資料を関連付け

て解答した生徒が大幅に増え、無解答の生徒はいなかった。設問2でも、複数の資料を関連付けて解答した生徒が約20ポイント増え、すべての資料を関連付けて解答した生徒も6ポイント増えた。この結果から、生徒は、設問1のような漠然とした問いであっても、設問2のような難しい問いであっても、既に習得した知識を活用し、複数の資料を関連付けて思考・判断する力が身に付き、設問に答えられるようになったと考えられる。

設問3は難しい問いだが、「うまくいったかどうか」という二者択一の明確な問いであり、授業実践前では複数の資料を関連付けて解答した生徒の割合が最も多かった。しかし、授業実践後ではすべての資料を関連付けて解答した生徒の割合が減少した。これは、解答するために必要な知識が未習事項であったことと関連があると思われる。思考・判断の基盤となる知識の習得がなされていないと、資料が示す事柄も理解できないため、十分に考察できなかったものと考えられる。

## 5 研究のまとめ

### (1) 研究の成果

ア 育成したい思考力・判断力を明確にし、単元を貫く「問い」を設定することにより、生徒は社会的事象個々の知識を習得するだけでなく、複数の社会的事象を総括してとらえることもできるようになった。また、思考・判断することの面白さや楽しさ、重要性に気付くことも分かった。

イ 育成したい思考力・判断力を明確にし、思考・判断の基盤となる「知識の習得」や「資料の提示」が保障された単元を構想して授業実践をすることにより、生徒は習得した知識や資料から読み取れたことを基に思考・判断し、自分の考えを持つことが確認できた。また、ワークシートに書いた自分の考えを進んで発表したり、調べ学習や話し合いで意見を出し合ったりするなど、積極的に自分の考えを表現する態度につながることも分かった。

### (2) 今後の課題

ア 本研究で取り上げた「価値判断」という思考力・判断力以外にも、様々な思考力・判断力がある。どの単元でどのような思考力・判断力の育成を目指すのか、そのために必要な知識・技能をどのように保障するかをさらに研究していきたい。

イ 本研究では、思考力・判断力を育成するための場を設定した。今後は、思考力・判断力をさらに高めるため、言語活動の充実などの手だてについて研究していきたい。

---

#### 注

- 1) 梅津正美「思考力を培う地理歴史科授業と評価のあり方～社会系教科教育としての歴史学習～」『高校地歴』44号抜刷、徳島県高等学校教育研究会地歴学会、2008年、5ページ。
- 2) 梅津正美「思考力・判断力を培うために、『習得』・『活用』・『探究』の学習を活かす」『中学校社会科のしおり』2009年4月号、帝国書院、2009年、2ページ。

## 参考文献

- ・市川伸一著『学ぶ意欲とスキルを育てる』, 小学館, 2004年.
- ・井上一郎・安野功・吉川成夫・日置光久・田村学著『読解力向上をめざした授業づくり』, 東洋館出版, 2006年.
- ・岩田一彦・米田豊編著『「言語力」をつける社会科授業モデル (小学校編)』, 明治図書, 2008年.
- ・北俊夫著『社会科学習問題づくりのアイデア』, 明治図書, 2004年.
- ・日本教材文化研究財団著『思考力・判断力を問う中学校社会科テスト問題の開発研究』, 2008年.
- ・小原友行編著『「思考力・判断力・表現力」をつける社会科授業デザイン (中学校編)』, 明治図書, 2009年.
- ・小原友行編著『「思考力・判断力・表現力」をつける社会科授業デザイン (小学校編)』, 明治図書, 2009年.
- ・高木展郎編『各教科等における言語活動の充実』, 教育開発研究所, 2008年.
- ・豊田ひさき著『リテラシーを育てる授業づくり』, 黎明書房, 2008年.
- ・榎澤和夫著『絵画・写真・地図を使って討論を』, 日本書籍, 2000年.
- ・梅津正美「思考力を培う地理歴史科授業と評価のあり方～社会系教育教科としての歴史学習～」『高校地歴』44号抜刷, 徳島県高等学校教育研究会地歴学会, 2008年.
- ・梅津正美「思考力・判断力を培うために、『習得』・『活用』・『探究』の学習を活かす」『中学校社会科のしおり』2009年4月号, 帝国書院, 2009年.
- ・安野功監修 香川県小学校社会科教育研究会著『「社会科ノート」による思考力の育成』, 東洋館出版, 2008年.
- ・横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校編『各教科等における「言語活動の充実」とは何か』, 三省堂, 2009年.
- ・中央教育審議会『平成20年版中央教育審議会答申－全文と読み解き解説－』, 明治図書, 2008年.
- ・文部科学省『中学校学習指導要領』, 2008年.
- ・文部科学省『中学校学習指導要領解説－社会編－』, 日本文教出版, 2008年.
- ・視察研修資料 さいたま市教育委員会委嘱教育課程研究発表会 (2009年).



